

「敦盛」のあらすじ

平敦盛^{あつちり}を討って無常を感じ、出家して蓮生^{れんせい}となった源氏の武将熊谷直実^{くまがいなおざね}が一の谷に下って昔のことを追懐していると、笛の音が聞こえ、やがて草刈りたちが近づいて来たので、先刻の笛はあなたが吹いたのかと訊ねると、その中の一人がそうだと答えたので、その男と笛の話をしているうちに、他の者は帰ってしまい、その男だけが残った。

そこであなたは帰らないのかと訊ねると、草刈り男は十念（弥陀名号・南無阿弥陀仏を十度唱えること、その功德で極楽往生すると云われる）を授けて欲しいからだと答え、それとなく敦盛の幽霊であることをほのめかし消え失せた。

（中入り）

蓮生が夜もすがら回向をしていると、敦盛の幽霊が現れ、懺悔の物語をしましょうと言って、平家の栄華と没落、それから自分の最期の有様なを語り、今は敵ではない蓮生の回向を喜んで消え失せた。

注 1. 平敦盛（たいらのあつもり）

平清盛の弟経盛の末子、官職に就いておらず「無官の太夫」と云われた。笛の名手。

2. 熊谷直実（くまがいなおざね）

源頼朝の御家人、後に出家し法然上人に弟子入り「蓮生」を名乗った。